

第10次中期3カ年計画書

令和7年度～令和9年度



第9次中期3カ年計画を振り返って (令和4年度～令和6年度)

この3カ年においては、コロナ後の経済活動の復調気配に水を差すように、令和6年元旦を襲った能登半島地震により人々の生活や農業生産は甚大な被害を被りました。一方で令和5年産米の高温障害による不作等さまざまな要因により米の価格は急騰し、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしました。

そのような中、第9次中期3カ年計画においてJAとなみ野は「活力と魅力ある地域農業の創造を目指して」7つの「G」に分類した事業戦略のもと、農業分野における5つの富山県No.1を目標とするなど各実践方策に取り組むことで、農業者の所得増大、農業生産拡大、地域貢献を目指しました。また、令和4年度より信用・共済に関する相談機能を本店に集約した店舗体制のもと、令和6年度から複数年にわたり導入が開始された信用事業の新しいシステムを運用し、限られた人員による効率的な業務と利用者へのサービスの維持・向上に取り組みました。

営農面では、業務用米やたまねぎの生産拡大へ向けた大区画圃場での実証栽培をはじめ、肥料価格高騰対策として予約購買率の向上と担い手農家直送事業等に取り組み、農家所得の向上とコスト削減に努めて参りました。

また、水田農業の生産力向上を目指した福野カントリーエレベーターの改修、日本一の種子生産を支える種子調製選別施設の再編整備により、持続性の高いとなみ野農業の経営基盤の確立に取り組んで参りました。

生活面では、専門的な相談機能体制の確立とともに、利用者のライフスタイルに応じた休日対応や、資産形成を支援するため投資信託の取り扱いを開始しました。

また、JA女性部、青年部と連携した食農教育活動や、農産物直売所を拠点とした地産地消の拡大に取り組み、農業と食の大切さを伝えるとともに、安心して暮らせる地域社会への貢献として日帰り人間ドックの取組強化と、健康教室の開催などを通じ健康寿命の延伸に努めて参りました。

運営面では、未来のとなみ野農業を支える持続可能な事業基盤の確立に向け積極的な自己資本の確保に努めたほか、本店施設の整備に向けた検討委員会の設置により地域農業に貢献できる拠点づくりを目指して動き出しました。

この第9次中期3カ年計画の実行結果を踏まえ、次期中期3カ年計画においては継続的あるいは新たな取り組み方針を掲げた上で、競争力のある魅力的なとなみ野農業の実現と組合員に寄り添ったサービスの提供に努めるとともに、持続可能な地域農業を下支えする経営基盤の確立を目指してまいります。

第9次中期3ヵ年計画での主な実践事項

営 農 面

直売米の拡販

- ・〔令和4年〕 17.3万俵
- ・〔令和5年〕 16.3万俵
- ・〔令和6年〕 15.7万俵

業務用米の拡販

(つくばSD2・あきだわら)

- ・〔令和4年〕 3.2万俵
- ・〔令和5年〕 3.2万俵
- ・〔令和6年〕 3.7万俵

主な園芸品 生産量・販売高

■たまねぎ

- 〔令和4年〕 6,349㍓、711百万円
- 〔令和5年〕 7,507㍓、597百万円
- 〔令和6年〕 6,208㍓、694百万円

■アルギットにら

- 〔令和4年〕 105㍓、81百万円
- 〔令和5年〕 90㍓、70百万円
- 〔令和6年〕 75㍓、70百万円

主穀作物の 品質向上

- ・〔令和4年〕 米上位等級比率87.3%
大麦Aランク
- ・〔令和5年〕 米上位等級比率63.5%
大麦Aランク
- ・〔令和6年〕 米上位等級比率93.6%
大麦Aランク

第9次中期3ヵ年計画での主な実践事項

生 活 面

相続手続体制の充実

【令和4年4月よりスタート】
相続手続きの本店集中対応

生活様式に合わせた 休日営業対応

【令和4年4月よりスタート】
〔毎週土曜〕 共済保障点検活動
〔毎週日曜〕 ローン相談会

資産運用についての 相談体制強化

【令和6年12月よりスタート】
投資信託の取扱開始など
資産運用についての対応強化

第9次中期3ヵ年計画での主な実践事項

運

営

面

福野カントリー エレベーター改修

- ・【令和4年8月完成】 南砺市苗島
- ・対象面積 水稻 560ha
- ・施設規模 3,000 t (処理能力4,000 t)
- ・乾燥機、集排塵機、冷却装置、
色彩選別機、荷受設備

種子調製選別施設 改修・整備

- ・【令和5年9月完成】 砺波市庄川町筏
- ・対象面積 水稻種子 485ha
大豆種子 150ha
- ・処理能力
水稻種子調製選別 3,260 t
大豆種子調製選別 330 t
種子保管施設 3,120 t
種子消毒施設 750 t

デジタル化の推進

- ・本支店間の遠隔相談システム設置
- ・本店への来店予約システム設置
- ・無線LAN環境整備
- ・ペーパーレス会議、Web会議環境整備

J A事業の情報発信

- ・SNS (YouTube、X、Instagram) の活用による営業活動、求人活動

自己資本の増強

- ・継続的な目的積立金の増額

J Aとなみ野自己改革工程表（数値編）

重点目標

成果指標・目標値

農業者の所得増大・農業生産の拡大

業務用米の生産拡大を通じた所得の増加

対象者：担い手経営体や中核的担い手など

想定

売上増加効果

令和6年度

作付目標：500ha

単収目標：10俵

売上8.5万円/10a⇒10万円/10a

令和4年度

令和5年度

令和6年度

目標

実績

目標

実績

目標

実績

350ha

370ha

370ha

385ha

500ha

406ha

10俵

8俵

10俵

8.5俵

10俵

8.8俵

主力園芸品目の生産拡大を通じた所得の増加

対象者：担い手経営体や多様な担い手など

想定

売上増加効果

令和6年度

たまねぎ作付目標：170ha

たまねぎ単収目標：5.5t

売上37万円/10a⇒45万円/10a

令和4年度

令和5年度

令和6年度

目標

実績

目標

実績

目標

実績

136ha

136ha

150ha

146ha

170ha

148ha

5.0t

4.6t

5.3t

5.1t

5.5t

4.1t

担い手農家肥料直送等事業によるコスト低減

対象者：担い手経営体や中核的担い手など

想定

コスト低減効果

令和6年度

22,000袋

1袋あたり50円～100円

令和4年度

令和5年度

令和6年度

目標

実績

目標

実績

目標

実績

10,000袋

20,937袋

22,000袋

23,943袋

22,000袋

23,552袋

地域の活性化

農業振興と地産地消の取組拡大（地場産食材の供給率向上）

令和6年度

学校給食地場産食材利用率 65%

令和4年度

令和5年度

令和6年度

目標

実績

目標

実績

目標

実績

45%

48%

55%

48%

65%

44%

経営基盤の確立・強化

農業関連施設の再編整備

令和6年度

農業関連施設の効率的運営

店舗・ATMの再編による合理化推進

令和6年度

信用事業の新システム導入による業務効率化

令和4年度

令和5年度

令和6年度

目標

実績

目標

実績

目標

実績

福野CE改修

8月竣工

種子施設改修

9月竣工

農業関連施設の効率的運営

「富富富」砺波ライスセンター受入開始

目標

実績

目標

実績

目標

実績

本店相談業務集約

4月実施

利用件数によるATM設置見直し

利質：時間延長
油田：撤去

信用新システム導入

10月導入

対話・意思反映

項目

令和6年度計画

令和6年度実績

総代・支店運営委員合同会議

年1回

■総代・支店運営委員合同会議(令和7年1～2月)

集落座談会

年2回+部会別座談会

■集落座談会年2回開催（各地区夏季・冬季）
■各部会別座談会年1回開催

担い手農家懇談会

年2回+月1回定期訪問

■担い手農家懇談会年2回開催（夏季・冬季）
■担い手農家へ月1回以上の定期訪問実施

農業体験活動

年4回

■学校田（田植・稲刈）、たまねぎ収穫体験

J A事業に関する情報発信

S N Sによる情報発信

■Instagram 4月開設 PR情報等 80投稿 フォロワー数：367
■X（旧Twitter）PR情報等：42投稿
■YouTube 農機メンテナンス動画等：54本の動画

第10次中期3ヵ年計画の策定にあたって

農業を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、JAとなみ野は常に新しい発想を求め続ける一方、これまでの3ヵ年を踏まえた継続的な取り組みに改善を加えながら、未来のとなみ野農業を末永く支える組織づくりを目指し、下記の各基本方針を掲げて次の3ヵ年に臨みます。

営農・生活（経済部）

1. 農業生産の拡大と所得の増大
2. 担い手農家の育成と経営基盤の強化
3. 環境調和型農業の拡大と地域の活性化

金融・共済（金融共済部）

1. 顧客の信頼に応える金融サービスの提供
2. 組合員・地域の皆様の目線に立った提案力強化
3. 共済を通じた安心と満足の提供

運営（管理室）

1. となみ野農業を支える安定した経営基盤の確保
2. 地域農業・地域社会に貢献できる事業活動の展開
3. より良いサービスを発揮できる職場環境の整備と人材育成

第10次中期3カ年計画 ～営農・生活面について～（経済部）

基本方針	3カ年の戦略と主な具体施策	数値目標
1. 農業生産の拡大と所得の増大	I. となみ野農産物の戦略的作付と収量品質の安定	
	①高温耐性品種等の作付拡大により長期的に収量・品質の安定を図ります	高温耐性品種等作付:40%以上
	②需給ニーズに対応した戦略的コメ品種の作付と販売強化による所得向上を実現します	業務用米(つくばSD2号)作付:500ha
	③農地の大区画化とたまねぎの作型改善による生産拡大により高収益園芸モデルを確立します	コスト削減:20% 早生作付:20% たまねぎ出荷量:9,000t
	④新たな園芸農家の育成とJA重点品目の生産拡大に取り組みます	園芸品目取扱高目標:13億円
	⑤専門的指導と気象変動に打ち勝つ日本一の優良種子生産に取り組みます	合格率目標90%以上
	II. スマート農業導入拡大と生産コストの削減	
	①生産力強化を実現するスマート農機具の提案、実演会を強化し生産現場での運用率を高めます	
	②セルフメンテナンス講習会の開催と点検整備力強化による機械寿命の改善を図り、コスト削減をサポートします	コスト削減:20%
	③農業資材の仕入強化と安定供給、物流コスト等削減により良質かつ安価な価格を訴求し続けます	
	III. 基幹施設の運用拡大と担い手施策の拡充	
	①担い手農家の労力軽減と施設利用度の向上によりコメ生産力を高めます	
	②農業用基幹施設の広域利用や運用改善を進めコスト削減とJA米の集荷力を高めます	
	IV. 重点園芸品目の生産拡大ととなみ野ブランド力の強化	
	①たまねぎを中心とした戦略品目の生産拡大と自然環境や地理的条件を活かした魅力ある園芸振興を進めます	
	②園芸用農機具のとなみ野型シェアやリース事業を活用しコスト削減を図ります	コスト削減:20%
	③とやまテロワールベジ(農産物の歴史や文化発信)を活用し、となみ野農産物の付加価値を高めます	付加価値向上:20%以上

第10次中期3カ年計画 ～営農・生活面について～（経済部）

基本方針	3カ年の戦略と主な具体施策
2. 担い手農家の育成と経営基盤の強化	I. J A研修制度の拡充と次世代農業者の育成
	①行政機関や外部講師と連携した通年研修制度の強化に努めます
	②アグリとなみ野における実務研修を通じた農業の基礎づくりにより次世代農家を育成します
	II. 農業支援サービス事業の確立
	①地域農業の生産力をサポートするアグリとなみ野の受託事業を拡充します
	②労働力不足に対応した外部支援サービス体を活用し担い手農家の経営基盤を支えます
	③地域内雇用の掘り起こしとスポットワークの事業化により労働力不足の解消に取り組みます
	III. 農業経営を中心とした営農指導の展開と専門職員の育成
	①農業経営指導を中心とした専門人材・専門チームを育成し担い手農家の期待に応えます
	②施設運営管理者や農業機械整備士の育成と技術研鑽を図り営農事業の持続性を高めます
	IV. 組合員組織の運営強化と再構築
	①生産組合や各種生産部会の活動再編と伴走支援により魅力ある組織化を進めます
	②J A基幹施設利用者の運営改善による組織力強化と利用価値を高めます
	③J A青年部と女性部の運営強化・連携により若年層、次世代層への農業(農協)事業への魅力と参画を高めます

第10次中期3カ年計画 ～営農・生活面について～（経済部）

基本方針	3カ年の戦略と主な具体施策
3. 環境調和型農業の拡大と地域の活性化	I. 減化学肥料・減農薬農業の拡大による持続性の高い農業の展開
	①環境配慮型資材の商品提案、供給拡大を通じ循環型農業を進めます
	②農業副産物を活用した循環型農業を目指しカーボンニュートラルに取り組みます
	II. 農業を拠点としたJA事業の拡大と食農教育の充実
	①直売所、インショップ、学校給食を繋げた新たなネットワークづくりを進め地場産活用率を高めます
	②生産者組織や直売所と連携した新鮮・美味しい地場産農産品の取扱を拡大します
	③地域全体で取り組むふれあい活動や体験活動をより充実させ、地域農業の魅力発信と【楽しい・美味しい・美しい】となみ野農業に取り組みます
	III. 組合員の暮らしを支える生活事業の強化
	①生産と消費をつなぐ直売所機能の充実により組合員、利用者の安全・安心な食を支えます
	②社会構造の変化に対応した生活物資の提案により付加価値の高い暮らしを進めます
	③次世代と共に育む新たな居住提案により家族・地域のコミュニケーションを高めます
	IV. 周辺環境と暮らしに配慮した事業運営
	①地域や環境に配慮した施設運営と安全対策の強化により住みよい地域づくりに取り組みます
	②事業所や農業施設の定期点検活動や5Sによる改善を継続し組合員資産を大切に管理します

第10次中期3カ年計画 ～金融・共済事業について～（金融共済部）

基本方針	3カ年の戦略と主な具体施策	数値目標
1. 顧客の信頼に応える 金融サービスの提供	I. 愛着・信頼を感じる顧客基盤の確立	
	①年金会員サービスの充実による会員の拡大に努めます	
	②世代に合わせた金融教室やセミナーを開催します	
	③信用部門と営農部門の連携による相続対応を行います	
	II. 顧客の資産形成・運用ニーズへの対応	
	①資産形成・運用ニーズに答える商品ラインナップと専門的な人材育成による相談体制※1を確立します ※1 貯金、年金、iDeco、投資信託、資産形成・相続相談への対応	相続相談 850件
	III. 顧客利便性向上とサービスの拡充	
2. 組合員・地域の皆様の目線に立った 提案力強化	I. 信用部門と営農部門の連携による提案力強化	
	①農業者に向け、融資渉外と営農指導員・農機センター職員との積極的な同行訪問を行います	農業者訪問件数210件
	②融資渉外と営農指導員が連携した担い手コンサルティングを実施します	
	II. 次世代層や地域の皆さまに向けたローン商品のPRと利便性向上	
	①日曜営業日に新興住宅地への推進活動を行います	
	②SNS等を活用し、定期的なキャンペーンを行いローン商品等のPR活動に取り組みます	休日融資相談件数 180件
	III. ローン商品の拡充によるWeb申込の利用促進強化	
	①ローン商品を拡充し、様々なニーズに対応します	
3. 共済を通じた安心と満足の提供	②顧客の利便性向上のためWeb申込の普及・拡大を図ります	ローンWeb申込件数 200件
	I. 契約者への対面、電話、インターネットを通じた3Q・保障点検活動	
	①MA（マネーアドバイザー）が訪問・面談・電話による3Q※2保障点検活動を行います また、窓口来店者にキャンペーンやインターネットを通じた3Q活動を展開します ※2 日頃の感謝をお伝えするとともに、共済金の請求忘れ、ご家族の変化などの確認を行う活動	3Q目標件数 8,000件
	II. ご家族での保障内容・保障点検の共有による次世代層との接点強化	
	①契約申込みや3Q訪問時には保障内容をご家族一緒に点検いただき、次世代を担う皆さまとの接点強化を目指します	
	②親子ふれあいイベントを開催します	
	III. 利用者の利便性向上のための、インターネットサービス普及拡大	
	①ご契約者自ら契約内容の確認や各種手続きが可能なインターネットサービスの普及を、広報誌やホームページなどを通じて行います	

第10次中期3カ年計画 ～運営面について～（管理室）

基本方針	3カ年の戦略と主な具体施策	数値目標
1. となみ野農業の持続的発展を支える安定した経営基盤の確保	I. 経営環境に応じた適正な財務基盤の確保	
	①持続的農業経営を下支えする自己資本の確保に努めます	自己資本比率 14.0%以上
	II. 組織の持続的発展をめざす次世代層との結びつき強化	
	①総合農協の利点を活かした円滑な組合員承継に向けて部門間連携を強化します	
	②SNS等での情報発信や事業間連携によるイベントの開催など、次世代層との結び付きの機会創出に取り組みます	
2. 地域農業・地域社会の活性化に貢献できる事業活動の展開	I. 地域農業、地域社会の活性化に貢献できる施設の整備	
	①本店機能の整備計画の策定、地域と連携した遊休資産の有効活用に向けた検討を行います	
	②既存施設の計画的な改修・整備に努めます	
	II. 地域社会の持続的な発展に寄与する環境、福祉への取り組み	
	①社会的要請による省エネルギーへの取り組み、再生可能エネルギーや電気自動車の導入等の検討を行います	
3. より良いサービスを発揮できる職場環境の整備と人材育成	I. 新システム導入による業務の効率化及びサービスの向上	
	①新たな信用事業システム・経理システムの効果的な運用による業務の効率化と、利用者へのサービス向上に取り組みます	
	II. 職場環境の改善による職員の安定的な確保と人材育成	
	①提案力と人材育成の強化を重視した効果的な活動拠点の設定を行います	
	②利用者との積極的な対話を促進し、顧客満足度の向上を目指します	
	③利用者が安心できるコンプライアンス体制の強化と職場風土の醸成に努めます	
	④多様化する働き方への対応を進め、エンゲージメント※3向上に繋がります	
※3 会社への愛着心、思い入れ等の意味		

数値目標（事業取扱高計画）

記載の数値は百万円単位をもって表示し、百万円未満は切り捨て処理してあるため合計欄と一致しない場合があります。

（単位：百万円）

項 目			令和6年度実績	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
信用事業	調達	貯 金（平均残高）	187,115	188,353	188,500	188,650	
	運用	預 金（平均残高）	146,654	145,900	144,900	143,900	
		有価証券（平均残高）	6,980	8,572	9,573	10,573	
		貸 出 金（平均残高）	23,413	22,413	22,400	22,400	
共済事業	長期共済保有高		391,037	372,537	356,530	336,135	
	短期共済掛金額		596	592	591	590	
購買事業	供給高	生産資材	肥 料	678	719	719	719
			農 薬	506	515	515	515
			農機具	1,375	1,153	1,150	1,150
			その他	388	370	370	370
			計	2,949	2,757	2,754	2,754
		生活物資	米・食料品	189	188	192	198
			その他	100	114	115	118
			計	289	302	307	316
		合 計		3,239	3,059	3,061	3,070
		販売事業	受託販売品取扱高	米	3,669	4,107	4,100
種 子	1,588			1,600	1,600	1,600	
野 菜	1,072			1,028	1,220	1,327	
畜産物	500			495	500	500	
その他農産物	604			555	560	560	
計	7,434			7,785	7,980	8,087	
買取販売品販売高	米		328	353	355	355	
	大門素麺ほか		132	135	128	126	
	計		460	489	483	481	
保管・利用事業			622	681	688	709	
宅地等供給事業			3	3	3	3	
福祉・その他事業			177	155	155	154	

数値目標（損益計画）

（単位：百万円）

項 目		令和6年度実績	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業 総 利 益	信用事業総利益	783	790	833	836
	共済事業総利益	588	554	537	526
	購買事業総利益	445	409	405	406
	販売事業総利益	557	546	547	550
	保管事業総利益	49	45	45	45
	利用事業総利益	94	125	130	140
	宅地等供給事業総利益	2	3	3	3
	福祉・その他事業総利益	49	37	39	41
	指導事業収支差額	△57	△68	△69	△69
	計	2,514	2,443	2,470	2,478
事業 管 理 費	人 件 費	1,289	1,330	1,364	1,376
	業 務 費	238	241	237	238
	諸 税 負 担 金	120	111	111	111
	施 設 費	713	673	624	585
	その他事業管理費	9	8	8	8
	計	2,371	2,366	2,344	2,318
事 業 利 益		142	77	126	160
事 業 外 収 益		104	82	96	96
事 業 外 費 用		13	10	10	10
経 常 利 益		233	150	212	246
特 別 利 益		22	-	-	-
特 別 損 失		30	-	-	-
税 引 前 当 期 利 益		225	150	212	246
法 人 税 等		62	28	58	67
当 期 剩 余 金		163	122	154	179

要員計画

(単位：人)

令和7年4月	令和8年4月	令和9年4月
206	209	213

※正職員数の計画です

固定資産取得計画

(単位：百万円)

施 設 名	年次別計画（取得金額）			備 考
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
ライスターミナル冷蔵設備更新	48			
タッピングセレクト		17		
稲種センター 色彩選別機			25	

※取得金額は、補助金等による圧縮記帳前の金額です

J Aとなみ野自己改革工程表（数値編）

重点目標

成果指標・目標値

農業者の所得増大・農業生産の拡大

高温耐性品種米等の作付拡大による所得の増加

対象者：担い手経営体や中核的担い手など

想定

売上増加効果

令和 9 年度

作付割合：40%以上

作付面積：1,850ha

売上 16万円/10a⇒19万円/10a

令和 7 年度

目標

32%

1,500ha

令和 8 年度

目標

35%

1,600ha

令和 9 年度

目標

40%

1,850ha

主力園芸品目の生産拡大による所得の増加

対象者：担い手経営体や多様な担い手など

想定

売上増加効果

令和 9 年度

たまねぎ作付目標：170ha

たまねぎ単収目標：5.3 t

売上 38万円/10a⇒48万円/10a

令和 7 年度

目標

140ha

5.0t

令和 8 年度

目標

160ha

5.2t

令和 9 年度

目標

170ha

5.3t

「肥料・農薬」直送・自引事業等によるコスト削減

対象者：担い手経営体や中核的担い手など

想定

コスト削減効果

令和 9 年度

24,000袋

1 袋あたり 50円～100円

令和 7 年度

目標

22,000袋

令和 8 年度

目標

23,000袋

令和 9 年度

目標

24,000袋

地域の活性化

次世代交流活動を通じた農業振興と地域の活性化

令和 9 年度

実施回数：7回/年

例：農作業体験、農業まつり、スポーツ大会等

令和 7 年度

目標

5回

令和 8 年度

目標

6回

令和 9 年度

目標

7回

経営基盤の確立・強化

地域農業の持続的発展を支える財務基盤の確保

令和 9 年度

自己資本比率 14.0%以上

令和 7 年度

目標

自己資本比率
13.6%

令和 8 年度

目標

自己資本比率
13.8%

令和 9 年度

目標

自己資本比率
14.0%

対話・意思反映

項目

令和 6 年度計画

令和 6 年度実績

令和 7 年度計画

総代・支店運営委員合同会議

年 1 回

・総代・支店運営委員合同会議
(令和 7 年1~2月)

年 1 回

集落座談会

年 2 回+部会別座談会

・集落座談会年 2 回開催
(各地区夏季・冬季)
・各部会別座談会年 1 回開催

年 2 回+部会別座談会

担い手農家懇談会

年 2 回+月 1 定期訪問

・担い手農家懇談会年 2 回開催
(夏季・冬季)
・担い手農家へ月 1 回以上の
定期訪問実施

年 2 回+月 1 定期訪問

J A 事業に関する情報発信

SNSによる情報発信

・Instagram 4 月開設
PR情報等:80投稿 フォロワー数:367
・X (旧Twitter)
PR情報等:42投稿
・YouTube
農機メンテナンス動画等:54本の動画

SNSによる情報発信